

科目	解剖学Ⅱ			必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	時間 数 (単 位 数)	64 (4)
目 標	循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系・生殖器系の構造を理解する。									
内 容										
1	血管系	血管系	17	呼吸器系	鼻腔・副鼻腔の構成					
2	〃	体循環と肺循環	18	〃	咽頭・喉頭の構成					
3	〃	血管の構造と機能	19	〃	肺・縦郭の構成					
4	〃	門脈	20	消化器系	消化管の構造と機能					
5	心臓	心臓の位置・心臓の構造	21	〃	口腔～食道					
6	〃	刺激伝導系	22	〃	咽頭・喉頭の構成					
7	〃	心臓の栄養血管	23	〃	胃の構成					
8	動脈の走行	頭頸部	24	〃	腸の構成					
9	〃	胸腹部・骨盤	25	〃	肝臓の構造					
10	〃	上肢	26	〃	膵臓の構造					
11	〃	下肢	27	〃	腹膜の構成					
12	静脈の走行	体循環系の静脈	28	泌尿器系	腎臓の構造					
13	〃	奇静脈・門脈循環	29	〃	尿路系の構成					
14	胎児循環		30	生殖器系	男性生殖器					
15	リンパ循環		31	〃	女性生殖器					
16	定期試験		32	定期試験						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
解剖学 医歯薬出版社										
					担当講師	桑原 俊男				

科目	生理学Ⅱ			必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	64 (4)
目 標	医学は、生命の維持と健康の増進を目標としています。医療はその健康の維持に生じた不具合を治すことを目標とする学問です。生理学は、生命現象を基本として、人体の構造と機能について学ぶ学問です。人体の機能を、血液、呼吸、消化、吸収、代謝、排泄の植物性機能と運動、感覚、神経の動物性機能についてそれぞれ詳しく学ぶことにより、人体の機能を理解していきます。									
内 容										
1	循環	心臓の構造	17	生殖	生殖器					
2	〃	刺激伝導系	18	〃	受精と発生					
3	血管	動脈・静脈・毛細血管	19	成長と老化	個体の成長					
4	〃	肺循環・体循環・冠循環	20	〃	加齢変化・更年期障害					
5	呼吸	外呼吸・内呼吸	21	内分泌	ホルモンの種類					
6	〃	気管・気管支。肺の構造と機能	22	〃	ホルモンの調節と機能					
7	肺胞換気	肺におけるガス交換	23	内分泌器官	視床下部ホルモン					
8	消化	酸素・二酸化炭素の運搬	24	〃	甲状腺ホルモン					
9	〃	口腔～食道の構造と機能	25	〃	副腎皮質ホルモン					
10	吸収	胃の構造と機能	26	血液	血液の成分と機能					
11	〃	小腸・大腸の構造と機能	27	〃	血液凝固作用					
12	栄養	栄養とエネルギー	28	体温	体温の調節					
13	〃	同化作用と異化作用	29	〃	体温の産生と放散					
14	代謝	基礎代謝・物質代謝	30	排泄	腎臓の構造と機能					
15	〃	糖質・脂質代謝・タンパク質代謝	31	〃	体液の調節・排尿反射					
16	定期試験		32	定期試験						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
生理学 医歯薬出版社										
					担当講師	広瀬智道				

科目	病理学概論 I			必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	64 (4)
目 標	<p>身体を構成する細胞・組織・器官が正常な形を保ち、正常な生理機能を営むことで円滑な生命現象を果たしている病理学は、病的な状態の身体に起きている異常や変化について学び、疾病の原因や成り立ち・進展など疾病の背後にある要因を明らかにしてゆきます。</p>									
内 容										
1	正常と異常	正常と病態の区別	17	腫瘍	腫瘍とは					
2	〃	病気の分類	18	〃	良性腫瘍と悪性腫瘍					
3	〃	症状・兆候・症候	19	〃	上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍					
4	〃	正常をゆがめる要因	20	先天性異常	奇形とは					
5	〃	正常への回復に影響する要因	21	〃	染色体異常疾患					
6	循環器系障害	虚血と梗塞の定義	22	〃	遺伝子の異常					
7	〃	充血とうっ血	23	免疫系の異常	免疫獲得のメカニズム					
8	〃	浮腫の分類	24	〃	免疫不全症					
9	細胞・組織障害	細胞の障害と適応	25	〃	先天的免疫不全症					
10	〃	細胞の死	26	〃	アレルギー疾患と分類					
11	〃	ネオクロシスとアポトーシス	27	〃	自己免疫疾患					
12	炎症	炎症とは	28	代謝性疾患	糖質・脂質・タンパク質代謝					
13	〃	創傷治癒のメカニズム	29	〃	代謝の正常な仕組み					
14	感染症	病原体の種類	30	〃	糖・脂質代謝の異常なメカニズム					
15	〃	汗腺の成立	31	〃	ミネラル・ホルモンバランス異常					
16	効果判定		32	効果判定						
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
病理学概論 医歯薬出版社										
					担当講師	各務 順				

科目	臨床医学総論 I		必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	時間 数 (単 位 数)	32(2)
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疾病概念を学び、鍼灸師として必要な臨床医学に関する基本的知識を獲得する。 ・ 疾患に対する検査法を選ぶことが出来、疾患と検査を結びつけることが出来る。 								
内 容									
1	診察の概要	診察の意義・診察の一般心得							
2	〃	関連用語の理解・診察法の種類							
3	〃	診察の順序・記録の内容と目的							
4	診察方法	医療面接							
5	〃	診察方法（視診・触診・打診・聴診）							
6	〃	測定法							
7	生命徴候の診察	バイタルサイン							
8	〃	体温・脈拍							
9	〃	血圧・呼吸							
10	全身の診察	顔貌・顔色・他							
11	〃	精神・言語・他							
12	〃	身体計測・体形・他							
13	局所の診察	頭顔面部・他							
14	〃	眼・耳・鼻・他							
15	〃	頸部・胸部・他							
16	定期試験								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
臨床医学総論 医歯薬出版社									
						担当講師	増田知行		

科目	臨床医学総論Ⅱ		必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	時間 数 (単 位 数)	32(2)
目 標	臨床医学総論Ⅰに引き続き、疾病概念と病態を学び、鍼灸師として必要な臨床医学に関する基本的知識を獲得する。疾患に対する検査法を選び、疾患と検査を結びつけることができる。								
内 容									
1	神経系の診察	脳神経系・髄膜刺激症状の検査							
2	〃	感覚検査法・反射検査・他							
3	運動機能検査	運動麻痺・不随意運動							
4	〃	徒手筋力検査・他							
5	その他の診察	緊急時の診察							
6	〃	年齢・性別毎の診察							
7	臨床検査法	一般検査・血液性化学検査							
8	〃	生理学的検査概要・画像診断概要							
9	主症状の診察法	頭痛・顔面痛・歯痛・眼精疲労							
10	〃	鼻閉・鼻汁							
11	〃	めまい・耳鳴り・難聴・他							
12	治療学	概要・薬物療法							
13	〃	食事療法・理学療法							
14	臨床心理	患者の心理							
15	〃	心理学的検査・評価法							
16	定期試験								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
臨床医学総論 医歯薬出版社									
						担当講師	増田知行		

科目	臨床医学各論 I			必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	時間 数 (単 位 数)	64 (4)
目 標	<p>身体を構成する器官が正常な振る舞いを保ち、正常な生理機能を営むことで円滑な生命現象を果たしている人体と、病的な状態の身体に起きている異常や変化について学び、疾病の原因や成り立ちなど疾病の背後にある要因を明らかにし各疾患を理解することを目的とします。</p>									
内 容										
1	感染症	細菌性	17	呼吸器疾患	感染性肺疾患					
2	〃	〃	18	〃	閉そく性肺疾患					
3	〃	ウイルス性	19	〃	びまん性肺疾患					
4	〃	その他	20	〃	腫瘍性疾患					
5	神経・筋疾患	脳血管疾患	21	〃	その他					
6	〃	感染性疾患	22	循環器疾患	心臓疾患					
7	〃	脳脊髄疾患	23	〃	動静脈疾患					
8	〃	変性疾患	24	〃	冠動脈疾患					
9	〃	認知証	25	〃	血圧以上					
10	〃	筋疾患	26	消化器疾患	口腔疾患					
11	〃	運動ニューロン疾患	27	〃	食道疾患					
12	〃	末梢神経疾患	28	代謝性疾患	胃疾患					
13	〃	神経痛	29	〃	腸疾患					
14	〃	機能性疾患	30	〃	肝臓疾患					
15	まとめ	質疑応答	31	まとめ	質疑応答					
16	定期試験	筆記試験	32	効果判定	筆記試験					
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
臨床医学各論 第2版 東洋療法学校協会編										
					担当講師	椎名 賢太郎				

科目	臨床医学各論Ⅱ			必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	64 (4)
目 標	身体を構成する器官が正常な振る舞いを保ち、正常な生理機能を営むことで円滑な生命現象を果たしている人体と、病的な状態の身体に起きている異常や変化について学び、疾病の原因や成り立ちなど疾病の背後にある要因を明らかにし各疾患を理解することを目的とします。									
内 容										
1	感染症	食中毒の原因	17	呼吸器疾患	日和見感染					
2	〃	と市中感染	18	〃	結核					
3	〃	ワクチンが有用な感染症	19	〃	閉そく性肺疾患					
4	〃	免疫低下をきたす疾患	20	〃	肺線維症					
5	神経・筋疾患	半側空間無視	21	〃	肺気腫					
6	〃	パーキンソニズム	22	循環器疾患	弁膜症					
7	〃	神経腫瘍パーキンソン病	23	〃	心房細動					
8	〃	認知症	24	〃	肥大性心筋症					
9	〃	〃	25	〃	心不全					
10	〃	深部感覚障害	26	消化器疾患	歯周病					
11	〃	筋ジストロフィー	27	〃	消化器のがん					
12	〃	胸郭出口症候群	28	その他	ホルモン異常					
13	〃	神経麻痺	29	〃	腫瘍マーカー					
14	〃	〃	30	〃	肝臓の疾患					
15	まとめ	質疑応答	31	まとめ	質疑応答					
16	定期試験	筆記試験	32	効果判定	筆記試験					
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
臨床医学各論 第2版 東洋療法学校協会編										
					担当講師	椎名 賢太郎				

科目	リハビリテーション医学			必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)	
【実務経験のある教員等による授業科目】											
目 標	鍼灸師の立場で障害者スポーツトレーナーを行っていた経験から、これまで経験したリハビリ領域における運動量の過不足、また患者の心理面でのサポートの考え方をこの本教科の基本として教育を行う。										
内 容											
1	リハの総説	リハビリテーションと障害リハビリテーション医学と医療									
2	〃	障害の評価									
3	〃	障害の評価									
4	医学的リハ	理学療法①									
5	〃	理学療法②									
6	〃	作業療法									
7	〃	言語聴覚療法									
8	〃	補装具、リハビリテーション看護ソーシャルワーク									
9	運動の仕組み	関節と運動力学									
10	〃	神経伝導路									
11	〃	関節構造、関節の動き①									
12	〃	関節構造、関節の動き②									
13	〃	関節構造、関節の動き③									
14	〃	正常歩行と異常歩行									
15	定期試験										
16	総括										
評 価											
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある											
教 材											
リハビリテーション医学 医歯薬出版社											
							担当講師	木村 健太郎			

科目	基礎はりきゅう学 I		必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
【実務経験のある教員等による授業科目】									
目 標	はりきゅう学の基礎習得のために、東洋医学の概論、臓腑・経絡などを学び、人体の診方を学習し、患者施術の基礎を身に付ける。								
内 容									
1	東洋医学の特徴	東洋医学の沿革・人体の見方							
2	〃	日本の東洋医学の現状							
3	生理と病理	生理物質と神							
4	〃	蔵象①							
5	〃	蔵象②							
6	〃	経絡							
7	〃	病因病機							
8	東洋医学の思想	陰陽学説							
9	〃	五行学説							
10	四診	望診、聞診							
11	〃	問診①、②							
12	〃	切診							
13	弁証論治	八綱弁証・気血津液弁証・臓腑弁証							
14	〃	治法八法、生理物質・臓腑の病証に対する治法							
15	定期試験								
16	総括								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
東洋医学概論 医道の日本社									
						担当講師	木村 健太郎		

科目	基礎はりきゅう学Ⅱ	必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
【実務経験のある教員等による授業科目】								
目 標	各経脈の走行や経穴の部位及び特性について学習する。 各経脈の走行を把握し、十四経脈の経穴及び要穴を覚える。							
内 容								
1	経絡・経穴の基礎							
2	督脈							
3	任脈							
4	太陰肺経							
5	陽明大腸経							
6	陽明胃経							
7	太陰脾経							
8	少陰心経・厥陰心包経							
9	太陽小腸経							
10	太陽膀胱経							
11	少陰腎経							
12	少陽三焦経							
13	少陽胆経							
14	厥陰肝経							
15	定期試験							
16	総括							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
経絡経穴概論 医道の日本社								
					担当講師	木村 健太郎		

科目	基礎はりきゅう学Ⅲ		必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	<p>人の身体を「総合的に診断し、治療を行う」といわれる東洋医学の概念や理論・治療法を理解し、臨床で活かせる知識を学ぶ。 東洋医学の特徴である「人の全体を診る」ということを理解し、治療が行える考え方を身に付けることを目標とする。</p>								
内 容									
1	弁証	八綱弁証							
2	〃	気血津液弁証							
3	〃	臓腑弁証							
4	〃	経絡弁証							
5	〃	六淫弁証							
6	〃	その他の弁証							
7	論治 (治則)	扶正去邪・治病求本・標本同治							
8	〃	陰陽の調節、正治と反治							
9	論治 (治法)	治法八法							
10	〃	生理物質の病証に対する治法							
11	〃	臓腑の病証に対する治法							
12	〃	外感病に対する治法							
13	〃	補瀉法、選穴の原則、特定穴の応用							
14		弁証の進め方							
15	総括								
16	効果判定								
評 価									
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>									
教 材									
東洋医学概論 医道の日本社									
						担当講師	島田光朗		

科目	分野別はりきゅう学			必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	64(4)
【実務経験のある教員等による授業科目】										
目 標	疾患別、症状別に施術ができるようそれぞれの発生機序、症状、経過を西洋医学的・東洋医学的な側面から学び、適切な施術ができるように学習する。また、分野別はりきゅう実技の前段階として各症状について詳しく学習する。									
内 容										
1	疼痛	両医学に基づく疼痛	17	関節痛	治療法					
2	腰下肢痛	両医学に基づく病態把握	18	頸肩腕痛	両医学に基づく病態把握					
3	〃	治療法	19	〃	治療法					
4	腰痛	両医学に基づく病態把握	20	上肢痛	両医学に基づく病態把握					
5	〃	治療法	21	〃	治療法					
6	下肢痛	両医学に基づく病態把握	22	頭痛	両医学に基づく病態把握					
7	〃	治療法	23	〃	治療法					
8	下肢痛	両医学に基づく病態把握	24	顔面痛	両医学に基づく病態把握					
9	〃	治療法	25	〃	治療法					
10	膝痛	両医学に基づく病態把握	26	胸痛	両医学に基づく病態把握					
11	〃	治療法	27	〃	治療法					
12	肩関節痛	両医学に基づく病態把握	28	腹痛	両医学に基づく病態把握					
13	〃	治療法	29	〃	治療法					
14	関節痛	両医学に基づく病態把握	30	〃	治療法					
15	定期試験		31	定期試験						
16	総括		32	総括						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
東洋医学臨床論 南江堂 配布資料										
					担当講師	内田舜				

科目	東洋医学臨床論			必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	64(4)	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋医学と東洋医学を総合した病態を把握し、医療面接の元、治療の適否を総合的に判断することができる。 ・臨床上遭遇しやすい症候、疾病について西洋医学的な考え方、東洋医学的な考え方の双方を学び適切な鍼灸治療方法を理解し、説明をすることができる。 										
内 容											
1	治療総論	現代医学、東洋医学の治療計画	17	治療各論	脱毛症						
2	〃	〃	18	〃	耳鳴り・難聴						
3	治療各論	眼精疲労	19	〃	排尿障害						
4	〃	うつ状態	20	〃	ED						
5	〃	めまい	21	〃	全身の症候						
6	〃	動悸・息切れ	22	〃	その他症候						
7	〃	血圧異常	23	〃	顔面麻痺						
8	〃	睡眠障害	24	〃	月経異常						
9	〃	食欲不振	25	〃	性器出血・帯下						
10	〃	肥満・やせ	26	〃	不妊症・つわり						
11	〃	悪心・嘔吐	27	〃	骨盤位・乳汁分泌不全						
12	〃	便秘・下痢	28	〃	小児特有の疾患						
13	〃	歯痛・咳嗽と喀痰	29	〃	〃						
14	〃	呼吸困難・鼻閉・鼻汁	30	〃	老年特有の症候						
15	定期試験		31	定期試験							
16	総括		32	総括							
評 価											
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある											
教 材											
東洋医学臨床論 南江堂 配布資料											
					担当講師	内田舜					

科目	社会あはき学概論			必修	履修 学年	2	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
実務経験のある教員等による授業科目										
目標	地域クリニックの連携（同意書面）を経ての療養費訪問鍼灸施療の経験を活かして、鍼灸施術と医療機関の関係性の持ち方や、患者の検査結果と鍼灸施術の守備範囲や専門医への紹介方法、文書、医療介入のすみ分け、各疾患毎の診察診療の基礎と具体的なプライマリアクションなど再現性の高い方法、手段を教育する。									
内 容										
1	第1章	総論 社会的ニーズとあはき師の役割								
2	第4章	高齢社会におけるあはき師の役割								
3	〃	認知症におけるあはき師の役割								
4	〃	少子化社会におけるあはき師の役割								
5	各疾患ごとの施術	脳卒中①								
6	〃	脳卒中②								
7	〃	脊髄損傷①								
8	〃	脊髄損傷②								
9	〃	切断								
10	〃	小児								
11	〃	整形外科								
12	〃	関節リウマチ								
13	〃	末梢神経障害・パーキンソン病								
14	〃	呼吸・循環器疾患								
15	総括	まとめ								
16	定期試験									
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
社会あはき学概論 リハビリテーション医学										
						担当講師	椎名 賢太郎			

科目	はりきゅう応用実技Ⅱ			必修	履修 学年	2	授業 の 方法	実習	時間 数 (単位 数)	64(2)
目 標	現代の予防医学の重要性と健康志向などから東洋医学ことに鍼灸医療への期待やニーズが高まっている。東洋的アプローチを含め全人的な医療が求められる傍ら、疾病に対する科学的な知識をもたずに臨床現場に立ち入ることはあってはならない。本科目では疾病を俯瞰的に症状を見る力を養い、臨床技術を身につけることを目的としている。卒後、臨床家として患者の前に立つ諸子に実務的なレベルで疾病を判断し施術することのできる知識と技術を身につける。									
内 容										
1	単刺	頸部、体幹	17	低周波鍼通電	頸部の筋、骨の触察技術					
2	〃	体幹、殿部	18	〃	後頭下筋群					
3	〃	上肢	19	〃	〃					
4	〃	下肢	20	〃	〃					
5	〃	症状別	21	〃	寝違え、可動域障害					
6	運動鍼	頸部、体幹	22	〃	視力調節障害、眼精疲労					
7	〃	体幹、殿部	23	〃	背部の骨筋構造の触察技術					
8	〃	上肢	24	〃	脊柱起立筋					
9	〃	下肢	25	〃	〃					
10	〃	症状別	26	〃	〃					
11	灸	頸部、体幹	27	〃	〃					
12	〃	体幹、殿部	28	〃	〃					
13	〃	上肢	29	〃	腰部の触察と判断					
14	〃	下肢	30	〃	筋膜性腰痛					
15	〃	症状別	31	〃	非特異性腰痛					
16	効果判定試験		32	効果判定試験						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
配布資料										
					担当講師	増田知行				

科目	はりきゅう治療実技Ⅱ			必修	履修 学年	2	授業の 方法	実習	時間 数 (単位 数)	64(2)	
目標	鍼灸の施術技術の精度を高めることは現代の予防医学の重要性と健康志向などから東洋医学ことに鍼灸医療への期待やニーズに的確に応えていくためである。またそれがクライアントや施術施設へのリスク管理にもつながる。東洋的アプローチを含め全人的な医療が求められる傍ら、疾病に対する科学的な知識をもたずに臨床現場に立ち入ることはあってはならない。本科目では疾病を俯瞰的に症状を見る力を養い、臨床技術を身につけることを目的としている。卒後、臨床家として患者の前に立つ諸子に実務的に通用する疾病を判断し施術することのできる知識と技術を身につけることを目標とする。										
内 容											
1	理学所見と判断	症状の判断と施術（体幹）	17	婦人科疾患	灸						
2	〃	〃	18	〃	灸						
3	〃	〃	19	〃	低周波鍼通電						
4	〃	症状の判断と施術（胸郭出口）	20	スポーツ疾患	単刺						
5	〃	〃	21	〃	置鍼						
6	〃	症状の判断と施術（上肢）	22	〃	低周波鍼通電						
7	〃	〃	23	〃	灸						
8	〃	〃	24	〃	テーピング、運動療法						
9	〃	症状の判断と施術（下肢）	25	〃	リハビリ						
10	〃	〃	26	退行性変性	関節炎						
11	〃	〃	27	〃	〃						
12	問診と診察	ケーススタディー	28	〃	筋萎縮						
13	〃	〃	29	〃	〃						
14	〃	〃	30	〃	運動療法						
15	〃	〃	31	〃	ボディーメカニクス						
16	効果判定試験		32	効果判定試験							
評 価											
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある											
教 材											
配布資料											
					担当講師	増田知行					

科目	分野別はりきゅう実技			必修	履修 学年	2	授業の 方法	実習	時間数 (単位数)	64 (2)
【実務経験のある教員等による授業科目】										
目標	整形外科領域を中心とした疾患に対して、全身に安全かつ適切な鍼灸施術を行えることを目標とする。授業だけでなく積極的な対人練習が望まれる。									
内 容										
1	ガイダンス	ガイダンス	17	頭顔面部	刺鍼・施灸					
2	腰背部	刺鍼・施灸	18	〃	〃					
3	〃	〃	19	〃	〃					
4	〃	〃	20	殿部	〃					
5	〃	〃	21	〃	〃					
6	項頸部	〃	22	〃	〃					
7	〃	〃	23	〃	〃					
8	〃	〃	24	〃	〃					
9	肩背部	〃	25	腹部	〃					
10	〃	〃	26	〃	〃					
11	〃	〃	27	〃	〃					
12	〃	〃	28	〃	〃					
13	上肢	〃	29	全身	〃					
14	〃	〃	30	全身	〃					
15	定期試験	単位認定試験	31	定期試験	実技試験					
16	総括		32	総括						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
断層解剖カラーアトラス (南江堂)										
					担当講師	島田光朗				

科目	スポーツ医学		必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	正常時の身体の構造や機能を理解し、身体に異常が発生した際の障害発生部位の確認方法、リハビリテーション術を学習し、障害を負ってしまってもなお身体能力を最大限発揮するために必要な知識を身につけ、スポーツ現場、介護現場等でのリハビリテーションや機能訓練に活かす。								
内 容									
1	脳血管障害	脳血管障害の疫学							
2	〃	脳血管障害のリハビリテーション							
3	脊髄損傷	脊髄損傷の疫学							
4	〃	脊髄損傷のリハビリテーション							
5	切断	切断の病態							
6	〃	切断のリハビリテーション							
7	小児疾患	小児疾患のリハビリテーション							
8	整形外科	整形外科疾患の病態とリハビリテーション (上肢)							
9	〃	整形外科疾患の病態とリハビリテーション (下肢)							
10	関節リウマチ	関節リウマチの病態とリハビリテーション							
11	末梢神経	末梢神経障害の病態とリハビリテーション							
12	パーキンソン病	パーキンソン病の病態とリハビリテーション							
13	呼吸器疾患	呼吸器疾患の概要とリハビリテーション							
14	循環器疾患	循環器疾患の概要とリハビリテーション							
15	総括								
16	定期試験								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
リハビリテーション医学 医歯薬出版社									
						担当講師	木村 健太郎		